

伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会 会議概要	
会議名称	第 3 回 伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会
開会日時	平成 27 年 5 月 13 日（水）午後 3 時 00 分
閉会日時	平成 27 年 5 月 13 日（水）午後 4 時 50 分
場 所	伊那市役所本庁 5 階 501、502 会議室
出席者	<p>策定委員アドバイザー 独立行政法人 森林総合研究所 理事 鈴木 信哉 林野庁中部森林管理局 南信森林管理署長 花村 健治</p> <p>策定委員 委員長 信州大学農学部教授 植木 達人 副委員長 上伊那木材協同組合 理事長 都築 透 独立行政法人森林総合研究所 領域長 山田 茂樹 伊那地区 橋爪 俊夫 高遠町地区 伊東 一 伊那地区 加納 ます枝 高遠町地区 伊藤 のり子 株式会社 DLD バイオエネルギー事業部 木平 英一 NPO 法人 伊那谷森と人を結ぶ協議会 理事長 稲邊 謙次郎 NPO 法人 森の座 理事長 西村 智幸 上伊那森林組合 参事 森 敏彦 国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所 砂防調査課長 大森 秀人 長野県上伊那地方事務所林務課普及係長 塚平 賢治</p> <p>事務局 長野県林業コンサルタント協会 調査研究課長 松澤 義明 富山農林部長、有賀耕地林務課長、熊谷林務係長、小池主査</p>
欠席者	<p>策定委員 長谷地区 市ノ羽 茂則 伊那市西春近諏訪形地区 区を災害から守る委員会 副会長 酒井 卓実 上伊那森林組合 参事 バイオマス・エネルギー室長 寺澤 茂通</p>
議 事	(1) ビジョン策定への提案 (2) ビジョンの理念と目標 (3) その他 ・ 基本的ゾーニング
資 料	(1) 会議次第 (2) 伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会 現地視察について（案） (3) 第 3 回 伊那市 50 年の森林ビジョン策定委員会資料 (4) 短期目標の要領 (5) 策定委員会 委員名簿

1. 開会

2. 委員長あいさつ（植木委員長）

新しい年度を迎えて、この策定委員会では最終的には平成 28 年の 3 月にはひとつの形になればいいと思う。今回は、皆様からの色々な意見が出るような、一つ工夫したやり方をしていきたいと思う。その際にはまたご協力いただきたい。

3. 委嘱

大森委員、塚平委員、花村アドバイザー

【自己紹介】

植木委員長、都築副委員長、塚平委員、森委員、平澤委員、西村委員、稲邊委員
木平委員、伊藤委員、加納委員、伊東委員、橋爪委員、山田委員、花村アドバイザー
鈴木アドバイザー、大森委員

4. 協議事項（事務局より資料に基づき説明）

（1）ビジョン策定への提案

（2）ビジョン理念と目標

（3）その他

- ・基本的ゾーニング

【意見交換】

（委員長）

ビジョン策定の提案で、今後 50 年後も生きていだろうという子供たちを対象に、様々なメッセージをいただき、コラム的にビジョンに折りこんでいこうということをやったかどうかということが、まずひとつ目の事務局の提案である。

（委員）

子供たちが、自分たちで提案したものが、その後 50 年後自分たちでどうなっているかと振り返ることにもつながって、いいのではないかと思います。

（委員）

私もいいと思う。コラム的に、冊子というのはどういうイメージか。

（事務局）

ビジョンには理念と目標が入り、市民の皆さんが見ただけのような本になる。その中にコラム的にピックアップして掲載させていただければと考えている。

（委員長）

掲載案は、森林、環境教育活動紹介というようなことか。掲載案はまだ色々と考えられてもいい。

（委員）

小学生の森林体験を里山付近でやっているが、子供たちは何年も山に入っていると非

常に色々を知っている。山へ入って覚えていくということは、非常に大事であり、できる範囲でそれをサポートしていくという取り組みをやっている。災害のあった前沢川の堰堤を子供たちに見せることも必要で、山の整備も大事だということを教え、私たちも子供たちの感度を吸収するということもやっている。是非小学生の課活動を載せてほしいと思う。

(委員長)

特に反対意見はないので、事務局提案の「次世代を担う子供たち」のメッセージの掲載をしていくということで、よろしいだろうか。

(2) のビジョンの理念と目標というところが、今後 50 年間、どのような理念を持っていくのか、大変重要なところである。伊那市にとって重要なキーワードを踏まえて、理念の案としてここに 6 つ出ている。この 6 つを全てビジョンにするわけではなく、これをある程度絞っていくということになるが、この出された案の通りの理念ではなくて、修正を加えてもいいと思う。

いかがだろうか。事務局へ聞きたいが、鍵カッコについて、候補(案-1)だと、二つのアルプスを覆う緑豊かな森林を後世に引き継ぎ、自然資源と農林業が共生できる活力に満ちた 50 年後の伊那市の森林を目指す。「森林(もり)・人(市民)・自然・産業、そして緑と人の共生の伊那市の森林(森)」と「引き継ごう! 豊かな自然・伊那の森林(もり)」。

この鍵カッコはどういうような意味を持つのか。

(事務局)

上位計画である伊那市総合計画に併せ、理念の考え方と、鍵カッコはそれを表す標語という形での記載である。

(委員)

鍵カッコの、「守り・育て・活用する」、順番にこだわらなくてもよいか。守るのが先ではなく、守る前はどのようなものなのか、育てるものはどう育てるか、活用はどうするのか、ちょっとわかりづらい。活用するには育てていかななくてはいけないし、或いは環境を守るには守らなければいけないし、それがもう少し具体的になってもよいのではという感じがした。

やはり、環境教育、森林環境教育をやっている中では、育てるのが先で、活用して、それが結果的に守ることになるという。あまり順序にこだわる必要はないが、そのように少し感じた。

(委員長)

育て、活用し、守るという流れ。それぞれが少し曖昧であり、もう少し文言を付け加えたらどうかというようなこと。例えばわかりにくい言葉を、欄外にコメント的に書いておく。目標や標語は、あまり長いとみんな見なくなり読まなくなってしまう。

(委員)

子供たちも含め、大人たちから見ると、どうやって守るのか、どう育てるのか、入り口の手前の話になってしまっているの、その辺がビジョンの中にどこかで導入するか、スーッと入れるような文言がどこかにあると楽かなと思う。

(委員長)

このビジョンや理念は、ビジョンの目標に詳しく述べられていくものと見ている。ビジョンは目標 1 から目標 6 までであるが、まずこういったものが必要かどうか、後ほど議論するが、その後、短期目標、実行計画となっている。ここを見ると、理念や目標というものの意味がわかってくる。50 年の森林ビジョンや理念は、簡潔でピタッとくるような表現がいいと私は思っている。

(委員)

先程おっしゃったことは、ひょっとしたら、何々をして守る伊那の森林とか、そういう感じのことなのか。

(委員)

もう少し誰が見てもわかるもの、例えば子供が見てもわかるものという意味である。

(委員)

先程の「どうやって守るのか」ということを、例えば、何とかして守ろうとか、どうやってとか、そういう標語の方がいいということなのか。

(委員)

そういった意味合いである。

(委員)

先程いった目標に、子供たちが将来にわたって夢を語るタイムカプセル的な発想。本来林業の経営の中で一番大事なことは、使われるものがどんな形のものがあって、それがあつたために必要だからこんなものを作りましょうという、逆算形式であると思う。林業というのは期間が長い結果が非常にわかりにくい。そういう逆の方向の展覧から物事を見たほうがよいのではないかと。それに向かっているのが、できた形を使われる形、水が飲めたり、環境が残っている形、どれが一番理想なのかと見ていけば、立ち上げたときに非常によいのではないかと。思う。

(委員長)

川下からの発想を、徐々に川上までに上げていく流れがいいのではないかと。先程タイムカプセルのような、という話があつたが、提言の中で、次世代からのメッセージとここでいう森林のビジョンとが、どうかみ合ってくるのかが気になった。事務局、先程の次世代の子供たちからのメッセージはどういう位置付けでこの全体像の中に入っていると考えているか。単なる企画として入れるという話なのか、それともそういった子供たちのメッセージを理念の中に組み込んでいった方がいいということなのか、どのように考えているのか。

(事務局)

今回 6 案を提出させていただいたが、今までの第 1 回、第 2 回の課題等を考えると、ある程度 2 ページの左側にあるようなキーワードとして形になってくるので、それを今回 6 案、六つの言葉として提示させていただいている。子供たちの活動内容やコメントを頂戴し、また委員の皆様方にご審議いただいて固めていきたい。本日は理念の言葉の一言一句まで固めていただくということは厳しいと事務局の方としても考えている。

(委員長)

では皆さんから、理念はこういったイメージ、このような表現、このように示すのがいいだろうという意見を出してもらい、それを参考にたたき台を作るような形でよろしいか。理念を作る際に、留意してほしいこと、気をつけてほしいこと、やめたほうがいい案など、ご意見いただけたらと思う。

(委員)

私は 3 番がいいと思う。また、全体の中でカッコ書きはやめたほうがいいのではないかな。パッと見て解りやすく、短いほうがいい。要は我々の世代が、今の世代が利活用しながら将来にいいものを残していこうというのいいのではと思う。50 年後に森林を残そうということなので、「次世代へ引き継ぐ」という言葉が、3 番だったら、あったらいいのではないかなと思う。

(アドバイザー)

ポイントは 50 年後であるので、50 年間、世代を引き継いで山を作っていかななくてはいけないというキーワードが入っていたほうがいい。もうひとつは、森林を基にした循環型社会で発展する伊那市ということ。この 50 年の森林ビジョンを維持し続けるということがポイントで、理念にキーワードが入っていれば文章はできると思う。

(委員長)

「継続」とか、「後世に引き継ぐ」という言葉は是非とも必要だろうし、循環型であるかどうかというのは、今後試されていく。そういった表現をつなぎ合わせ、「活用し守っていく」ということも含めた形になるということ。出されたご意見を元に、もう一度練り、原案を次回には、(次回に間に合うかどうか?) 提案するというところでよろしいだろうか。文言は、私と、副委員長の都築さんと事務局の三者にお任せいただいて、原案をまたご提示するというところでよろしいだろうか。特に反対意見も無いので、そのように案を包み込むように作っていききたいと思う。

それから「ビジョンの目標」であるが、理念ができたと仮定し、次の段階として具体的にどういったことを目標としていくのかということが 6 つ提案されている。

- 1 「生物多様性と自然環境の保全」
- 2 「森林の生産力の維持と森林経営」
- 3 「森林生態系の健全性と活力の維持」
- 4 「山地と水資源の保全と維持」
- 5 「市域の持続可能な経済発展を担う森林・林業（農業）・木材産業活動の推進」
- 6 「森林・林業が担う住民要請への対応」

以上の 6 つが事務局から提案されている。皆さんの方から目標の 1 から 6 つまでである中について、ご意見、お考えを述べていただければありがたい。それを参考にまとめていきたい。

(委員)

1 番が「保全」、3、4、5、6 番は「維持」、「維持」、「推進」、「対応」ときて、2 番だけ「林業経営」となっているが、これは何か。

(委員長)

「森林の生産力の維持」だけでも十分である。「林業経営」という言葉は無くても良いのではないか。

(委員)

あえて、林業に携わる方へ対するメッセージ性を持たせるなら「林業経営」というものを入れた方がいいかもしれないが、2番以外は、文末で「保全」するのが目標だ、「維持」するのが目標だと言いつつしているのに、2番だけ「林業経営」という体言止めになっている。「維持」というと、「現状の維持」である。それなら「持続的な」の方が前向きである感じがする。

(委員長)

維持するものと、発展していった方が良いものとあるということだろう。そうした場合、森林の生産力や林業経営というものは「維持」でとどまっているのではなく、もっと前向きに発展させていこうという話になるのであろう。だからこの地域が、農業も含めた広い意味で、土地生産力を高めながら豊かな社会を作っていくのだということになれば、「森林の生産力と林業経営の発展」という表現が良いのだろうかということになる。

(委員)

5番目のところに、林業カッコで農業というのがあるが、今、林業だけを捉えていくとかなり地域の方々のハードルが高い。かつては専門的でなくて、「農林業」としてやってきた時代が延々とあった。今は多くの人が、林業はともかく農業も手を離しているということであるので、これからの農林業がどうあるべきかという表現をどこかで入れると取り組み易いような気がする。

(委員長)

林業を単体として将来像を想定しても、産業としての位置付けは難しい。森林・林業と農業を一体的な産業として検討していくとすれば、「農林業」とするのが良いのではないかという気がする。

3つ目の「森林生態系の健全性と活力の維持」。病虫害や竹林が出てきていて、現状のままでは困るから、何とかプラス方向の表現をしていきたい。

4つ目の「山地と水資源の保全と維持」。さらに防災、減災を高めていくことを考えれば、この2、3、4は最後の語尾の部分を考え直し、次回に提案したいと思う。

5つ目は、「市域の持続的な発展」を狙っていくのだというトータルな産業としての位置付け。

6つ目が「住民要請への対応」。じっくりくるだろうか。

(アドバイザー)

目標の6は、住民が担う森林林業への、具体的な住民支援のようなイメージかと思う。児童・学生に対する環境教育の支援や、いわゆる山岳での生活の見直すということ、この項目に実は伊那市らしいものを盛り込むと、ビジョンとしては高くなると思う。

(委員長)

目標の1つ目から5つ目というのは、どこでもありうる基本である。伊那市の特徴として、6つ目でうまく表現したほうがいい。今言われたような、例えば自分たちのものは

自分たちで作り、利用し、そしてまた戻すという循環型のイメージを、全国に先駆けて作るような。或いはこの地域が、地域で自立するようなイメージを、6つ目の目標で持つような表現が良いのではないか。それがひとつの伊那市の特徴として、アピールできる大きな点なのではないか。

(アドバイザー)

伊那市は、木質バイオマスを始めとして「循環型」の取組がかなり進みつつあるように感じる。そのあたりを伊那市の独特な表現で考えることは非常に良いと思う。

(委員長)

ここでいう目標の表現がおとなしすぎる。もっと的確に、もっと伊那市らしい表現で書いたほうが良いという気がする。

(委員)

「循環型社会形成の中核となる森林」みたいなこと。

(委員)

女性の視点から。山からの恵みや里山を近く感ずる為にはどうしたらいいのかとなるが、山が整備されると、ワラビやコゴミなど山から受け取る恵みもあるため、そのあたりも入れていただけると、女性としては親しみが感じられるところも出てくる。

(委員)

今おっしゃっていたような、女性の視点、個人の視点、或いは産業従事者の視点と色々ある。事務局から示されたような基本目標の設定の仕方もあるだろうし、我々の目線で見たと設定の仕方もある。それがどちらかではなくてはいけないということではなく、ひとまず事務局の方でこういうレベルで設定されているので、この場でも、その後でも、個人レベルや事業体レベル、そこから森林に対してこうあってほしいということを集めてみて、それで今後もう一回検討してみてもいいのかと思う。

(委員長)

もう少し、言うなれば生活目線のような表現でいくということで、もう一回、表現を変えるような時間はあると思う。

次回10月の委員会までの間に、現地視察がある。その中でもしかしたらもっと良い表現が出てくる可能性もある。イメージを持って現地へ行くと、良い案が出るかもしれないですね。今日はこういう流れで行くということを理解してもらい、次回の第4回、10月の委員会で具体的に再提案してもらって決める、そんな流れでよろしいだろうか。

(委員)

目標というのは、本来横並びであると思うので、果たしてこの順番でいいのか。項目を並べて最後に順番はもう一回練ったほうが良い。

(委員長)

順番については、もう一回出てきたところで見直すということでよろしいだろうか。そうすると、皆さんにイメージをしてもらいながら、生活目線あるいは伊那市の身近な表現として、また何がこの特徴としてあるのかということ、この基本的な目標1から6をイメージしながら見直すことをお願いしたい。

50年の森林ビジョンの目標というのは、実は短期目標実行計画、目標期間10年とい

うものがある。この短期目標については具体的な話になるため、私としては、専門部会を作ってください、そこで議題を作ってください。例えば先程の1のような「生物多様性と自然環境の保全」といった場合、では実行計画はどうするのか、その計画の推進方法はどのようにしていくのか、ということ全体で議論してもなかなか進まないだろうから、次回の10月までに専門部会でたたき台をつくってと、私はイメージしている。その方が委員の皆さんが議論に参加して自ら作っていくという意味でもビジョンらしいかなと思っている。

全く変わっても良いのだが、先程の6つのイメージをベースとして専門部会を作るのが良いのではと思う。目標の6つの案は全然決まっていなくて、6つのイメージを何となく持ってもらい、市民レベルの表現で伊那市らしい特徴あるものを目標としていこう、というところまでは決まっている。但し、生態系の問題や林業の問題、防災の問題は、たぶん外すことはできないだろう。そういうところでグループ分けをしていきたいがよろしいか。

(委員)

6は、この文言でいくのか。それとも「循環型社会形成の中核となる森林」みたいなイメージか。

(委員長)

後半で言った「循環型」あるいは、産業が産業として自立しながらやっていくようなイメージである。

そうすると、1から6という、およそのイメージの専門部会に、「自分はここに入りたい」「この分野のことに具体的にとまどめていきたい」ということで、ご意見を伺いたい。実行計画は目標期間を10年間とし、目標を達成するための具体的な内容を提案していく。実行計画は多くとも4項目までとし、それから各項目の必要性和意義(地域や市民にどのようなプラス効果を与えるか等)を簡潔に示してほしい。計画の推進方法としては、実行計画の項目ごとに具体的達成手法を述べていただくが、前半5年間と、後半5年で分けて大きく2つの期間で考えてほしい。また、項目ごと、ステップごとに、①何を、②いつまでに、③どこまで達成するべきかという目標を書いてほしい。それにより具体的に短期目標が示され、それに沿ってやっていくというようになるのではないか。そういったことを専門部会ごとに議論してまとめてほしい。各部会にはリーダーをおくこととする。

【専門部会 班分け】※印はリーダー

1「生物多様性と自然環境の保全」

※塚平賢治 植木達人

2「森林の生産力の維持と森林経営」

※酒井卓実 橋爪俊夫 大森秀人

3「森林生態系の健全性と活力の維持」

※市ノ羽茂則 伊東一 伊藤のり子

4「山地と水資源の保全と維持」

※平澤照雄 森敏彦 寺澤茂通

5「市域の持続可能な経済発展を担う森林・林業（農業）・木材産業活動の推進」

※木平英一 都築透 稲邊謙次郎

6「森林・林業が担う住民要請への対応」

※山田茂樹 加納ます枝 西村智幸

(委員長)

6つの専門部会で原案を作ってもらいたい。締め切りは、第1回目を9月中旬に出していただけないか。出たところで少し議論し、2回目を第4回委員会の前頃までにと、これを最終案にしたい。

協議事項の「基本的ゾーニング」というのは先程事務局から説明された。ここで何かご意見、質問等はあるだろうか。一応、標高と傾斜をベースにこういう特徴があるのではないかということであるが。

(委員)

先程の、6項目の関係の1番の多様性の保全計画と、林業経営だとか、山地災害の保全計画。その辺りはひとつのゾーニングだと思われるが、区分図をある程度踏んで、ゾーニングの参考、ベースとしているのか。林業生産が比較的可能性が薄いところがあるようだが、そこは無理だという話になる。その辺を含んで林業経営の可能性を身に着けていくものなのか、或いは林業経営の可能性があるところでも、山地災害保全のためのエリアだという意味での林業経営分野でゾーニングをかけていくのか、その辺りはどうだろうか。

(委員長)

これは基本的な分け方として捉えてもらって良いと思われる。例えば林業、木材生産ゾーンは比較的傾斜が緩やかで標高が低いところだというイメージの中で、林業に適している場所としている。ただ、山地保全ゾーンとなっているが、傾斜が急でなく、標高が高いところでない可能性もある。そう考えるのであれば、もっと緩やかな所でも山地災害防止を考えなければいけない場合があるため、そういうことの意を汲んで作ってほしいと考えている。一応、目安としてこのゾーニングを示しているということである。

だからこのゾーニングは、先程示した傾斜と標高で分けられるというところをベースに、多少柔軟に考えてもらえればと思われる。

(委員)

ゾーニングのことではないが、9ページというのは、標高データのレイヤーと傾斜のレイヤーを重ね合わせたと言っていたが。

(事務局)

はい、9ページの左側の図は、標高、傾斜を出し、それをスコア化して加算値で区分したという形である。

(委員長)

このスコアの区分は、一般的にはこのような具合で分けているのか。傾斜で4つに分

けて、標高では3つに分けてある。

(事務局)

こちらのスコアは、定量評価の場合、本来は可変量解析という極めて難しい分析をして係数を出すのが、まだこのような事例がないので、区分するときの差別化を図る為に点数を大きくしてある。

(委員長)

あえてメリハリを付け、その結果このように色分けができたということである。

とりあえず今日のところはこういったことを押さえておき、それぞれ専門部会で議論し、案を出していただくということをお願いしたいと思う。

5. その他

(事務局)

現地視察について（開催予定日：7月29日）

視察場所の提案があれば、事務局まで。

5. 閉会